

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2791100106		
法人名	社会福祉法人 寺田万寿会		
事業所名	グループホーム まんじゅ		
所在地	大阪府岸和田市南上町2丁目5番6号		
自己評価作成日	平成22年2月22日	評価結果市町村受理日	平成22年5月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2791100106&amp;SCD=320">c.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2791100106&amp;SCD=320</a>
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポンアクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常磐町2-1-8親和ビル4階		
訪問調査日	平成22年3月17日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営母体が病院である事から、ご本人、ご家族様に医療・健康面において安心していただけていると思います。その期待にお応えできるようにと、訪問看護との連携を行っています。ご本人・ご家族様とつながりを大切にしながら、私たちがサポートさせていただけることは何かを常に話し合っています。お一人お一人の、言動から、言葉に出来ない内面の思いを理解するように努めています。入居者様の生活における、ゆとりある時間と空間を追求したケアを目指しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人の理念、地域とともに高齢者の明るい未来と安心を目指しますを基に、グループホームらしい「近所とのふれあいを大切にします」が重なった日々のケアが、利用者の落ち着いた笑顔に表れている。前任管理者の応援のもと、職員と一体となってグループホームのサービス・ケアの本質を求める現任管理者の姿勢は、利用者・家族の大きな信頼に繋がっていると想像する。陽光が降り注ぐ広いウッドデッキと植え込みは、テイクタイムに格好の場所であり、いずれ重度化するであろう利用者の外気浴など、大切な憩いの場所となるであろう。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の下に、職員が話し合い決めたグループホームの理念を共有している。また毎月目標を掲げ、毎月評価している。	職員共通の言葉として生まれたとする理念の中にある「ご近所とのふれあいを大切に」が、日々のケアに生かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の中学校の職場体験を受け入れ、小学校の音楽会に参加、子ども110番の役割、ボランティア3名とのオープンカフェ、老人クラブ主体となって行うグラウンドの水やり当番を引き受けている。	ホームとして地域に溶けこみ、利用者が地域の一員として生きていくことを支援するべく、様々な工夫と努力を重ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	岸和田市のモデル事業として、認知症の専門機関としての事業所であることを表示したシンボルマークを貼付している。広報として発行している「まんじゅだより」の気まぐれ介護塾という欄を設け情報発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回利用者・家族・市職員・町会役員・知見者・管理者2名で構成されたメンバーで開催し、運営状況・行事・利用者状況の報告を話し合い、意見を頂戴している。パワーポイントを活用し実践報告した。	開催期、参加メンバー、会議内容も順当である。しかし、一層地域でのホームの存在を深化させるための方策が不十分である。	構成メンバーとして、近隣の一般住民やボランティア、交流のある小中学校の教師などの参加を要請し、推進会議の活性化を促す努力を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議のメンバーに入ってもらっている。問題発生時は時間をおかず質問し、指導を受けるよう心がけている。	市担当課との交流・連携が利用者の益に繋がることを理解し、よい関係づくりに努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠は、開錠を基本としているが、夜間帯は施錠を行う。2階入り口は遅出が出勤する10:00開錠とし、17:00施錠とし、施錠時間帯においても、ご本人の帰宅の訴え等がある場合は宿直の協力にて見守りを行なっている。	身体拘束についての理解は十分であり、利用者への対応も確かなものである。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	岸和田市職員である講師に来ていただき、講義を受けた。客観的立場にたち、虐待の恐れが無いかをミーティング等を通じて話しあう機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実践者研修や、地域包括支援センター主催の研修に参加。社会福祉協議会担当者の月末に来訪時、ご本人を交え、生活状況や経済面について相談出来ている。成年後見人とも来訪時や電話を通じて相談させていただいている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、実際見学をしていただいたり、入居してからのご家族の協力の依頼、退去を求める場合について具体的に説明している。傾聴の姿勢を基本に相談援助させていただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているが、投函されたことなし。来訪時やケアプラン説明時に聞き取りを行っている。運営推進会議や、年1回事例研究発表会を行っており、関連機関や、介護相談員に来訪していただき意見を頂戴している。	家族来訪時に丁寧な聞き取りをするよう心がけ、利用者の変化からの汲み取りも重ねながら、課題解決に取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に1回事業方針についての説明を含む全体会議を開催し、各職員には、業務管理シートの提出とリーダー面接を義務付けており、各部署リーダーは3ヶ月毎の提出と管理者面接を行なっている。週1回のリーダー朝礼を行っている。	各職員が業務のふり返りを行うシステムを採り、それらを集約・把握するリーダー・管理者との話し合いなど、意見反映の機会が保たれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回、業務管理シートを通して、面接を行なっている。また日頃から声かけを行なうよう勤めている。毎朝、管理者はフロアを巡回しながら、利用者・職員とのコミュニケーションを図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症ケア実践者研修に毎年数名受講させている。新人職員には各部署別研修項目があり、目標を立て、振り返りをする習慣をつける為研修記録を提出させている。また、回覧を通じて自主的な研修参加も含めた情報提供を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岸和田市グループホーム連絡会に参加させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	食事・排泄・入浴の日常生活における基本的なケアにおいて、これまでの習慣や、嗜好等を聞き取り、また、言葉に出来ない思いを察知できるよう職員間の情報交換を密に行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時同様に、傾聴の姿勢を基本に、家族が何を求めているのかを知り、必要と思われる情報提供を行うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントをしっかり行うように努めている。ご本人、ご家族様の意向を確認した上で、カンファレンスを行い、専門的知識を活かし、真のニーズを見極めることに努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	単なるサービスとして受身の生活を送るのではなく、共に助け合いながら生きていることが実感できるように、自然な声かけにて、一緒に行うことを基本としている。自らすすんで行ってくださった時は、労いの声かけを忘れないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員がすべての援助を行うのではなく、買い物については家族で準備が出来るものは用意してもらうようにしている。ご家族様としての役割を残しておくように気をつけている。行事参加の確認等を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者個々に、ご入居される以前に利用されていた理美容室に同行させていただいている。また、年賀状や電話にて会話をさせていただく機会を作っている。デイサービスにも行き来出来るようになっている。	紡いできた各人の歴史、思い出の片を大事にしなが、日々の生活への繋がりが保てるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	リビングでの座席はあえて固定しておらず、その日、その時の状況を把握した上で、湯飲みやおやつを配ることで配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先の病院を訪問させていただいたり、甲電をお送りさせていただいている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの担当職員をつけさせていただいている。各担当職員には、職業倫理として主体性の尊重について定めており、落ち着いて関わられる時間を作るようにしている。	一人ひとりへの寄り添いのなかから、やりたい・できないことを見極め、活動る(いきる)ことへの支援をすすめている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	自宅訪問を行うなど、出来る限りの情報を集め、1ヶ月間様子を見させていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のケア表と、訪問看護との連携により、健康状態を把握させていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が、モニタリング予定日を設定し、計画の見直しを行っている。ケアプランに即時充当させることが出来ない内容については、申し送りノートや、業務日誌を通して伝達し、対応するよう勤めている。	各担当者の観察・関心・感心などからの記録の共有と分析・検討を重ね、介護計画の作成、その見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに即した記録が残せるように、フォーカスチャータリング方式を活用している。また、誰が読んでもわかるように書くこと、ご本人の言葉をそのままに記録として残すよう周知している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員一人一人が心豊かで、ゆとりが無ければ、期待にお応えすることができないと考えている。認知症ケアにおける専門性の高い、先駆的な取り組みを行なう部署として周知している。アレンジクッキングを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	岸和田市立図書館の図書カードを作成し、職員同行にて書物を借りに行くこともある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はご本人、ご家族の希望に即時対応出来るように努めている。職員が付き添い、ご本人に代わり、診察内容・指示について聞き取りを行っている。内容が変わった時は、ご家族に連絡させていただいている。	個人的なかかりつけ医、提携医ともに受診体制は十分に図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	昨年11月より訪問看護との連携体制をとっている。緊急時の連絡体制についても決まっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室を通して、書面・または電話連絡等により、情報を交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針について文書化しており、契約時に説明をし、同意を得ている。	契約時の同意書を活かしながら、変化する家族の思いを大切にして、利用者・家族・職員が納得の支援体制の用意がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡体制について常時事務所デスクに表示している。AED使用についての研修も実施した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	新人職員研修において、避難通路に付いて説明している。消防訓練も行った。	規定の避難訓練は行われている。近在の職員が居るが、近隣の応援体制についての協力が不十分である。	居室が2階にある関係から、特に夜間の避難については問題がある。運営推進会議を一層活用し、近隣住民の協力要請に努力を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職業倫理、接遇、プライバシー保護の研修を新人研修に組み込んでいる。職員同士、客観的立場に立ち、注意しあえる環境づくりを構築している。	人生暦・生活歴・個性を熟知し、経験と知恵を学ぶ姿勢を忘れず接遇するよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の場面で、利用者の意向を導き出し、自己決定を尊重している。職員側が決定するのではなく、利用者が、情報提供をさせていただくことを周知している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	あらかじめの予定は、行事や、企画のみで、特に入浴については、声かけする優先順位はあるものの、御本人の意志を尊重することとしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性は髭剃り、女性は口紅、毛染めの支援を行なっている。洗面が不十分な方にはHOTタオルを用意させていただいている。また、整髪等については地域の理美容室を利用し同行させていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	女性の方は、今までしてきたのでたくない方もいらつやり、無理強いはいしないよう配慮している。ごく自然に自ら協力してもらえよう環境を作るよう努力している。毎週火曜日はクッキングで、メニューを一緒に考えてもらっている。	できること・やりたいことを自然体で参加している。食材を話題にしながら、「たべること」を重視して、なごやかに卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量をチェックしている。食維持以外は、10:00・15:00・入浴後など用意させていただいている。その他、いつでもお茶が飲めるように、レジャーポットにてを用意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前のうがい・食後の歯磨きは、個々に合わせた対応にて援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	羞恥心に配慮することはもちろんのこと、職員間の声かけにて、適時誘導を行なっている。排泄パターンを把握する間は、排泄チェック表を活用し統計を出している。	個性と体調に留意しながら、職員間の連携をいかしての排泄介助が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝のヨーグルトは出来るだけ食べてもらえるように、蜂蜜等を購入し、個々の嗜好に合わせて提供している。水分補給の声かけや、夜間の配茶を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴した日はいつであるのかわかるようにチェックしている。日にちの間隔があいている方を優先に声かけしている。朝・昼食後・おやつ後・寝る前と個々に合わせた入浴援助をしている。	個々人の希望に合わせた入浴介助が行われている。入居当初の入浴嫌いも原因を探りながらの対応で目的を達している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝る前の冷暖房の設定など個々に合わせている。消灯時間は定めていない。御家族には、湯たんぽやこたつ、電気毛布など用意していただいている。居室に新聞を持ち込むことも自由である。雑誌は美容室から譲っていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を一括管理している。訪問看護が1週間ごとセットをし毎回介護職がセットしている。通院には職員が付き添い、本人に代わり、主治医からの指示を周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ビリヤードを設置している。その他御本人の趣味などを生かした役割を見つけ支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物の同行や、近隣の自宅への外出付き添い、お城周辺への散歩、月一回の筋力トレーニングへの同行、毎週一回のグランドへの水やり、毎日のゴミ捨てに協力してもらっている。	様々なかたちでの外出支援が行われている。地域行事に夜間外出で参加しており、公共交通機関を使つての花見外出の計画もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を自己管理し、新聞の支払いを行っている方もいらっしゃる。毎週木曜日には、移動販売のパン屋さんに来て頂いており、御本人に金銭授受を行なっていただいている。また通院時の支払いに同行してもらったりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お正月には年賀状、友人宅にはあらかじめかけてもよい時間帯などを確認し、個別プランに取り込んでいたこともある。またご家族が来訪できない時は電話を取り次ぐなどを行なっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	朝からは主に掃除を一緒に行なっている。定時に室温・湿度のチェックを行い、加湿器・冷暖房の調整・換気に努めている。天気の良い日は窓・玄関を開放している。	ウッドデッキからの採光も良く、落ち着いた設えの居間はゆったりしており、我が家の趣き十分である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファーや、浴室前の畳、窓のそばには椅子を設置し、テラスが眺められるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に御説明させていただいている。また、入居者に了解を得て、見学してもらっている。	生活歴と個性、家族の思いがさまざまな形でその人らしい住まいを作っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すべてバリアフリーではなく、所々には段差が残されている。あえて踏み台をおいたりしている。電源などは各個人で出来るようになっていく。		